

第2章 当別町の子どもと子育て家庭の現状と課題

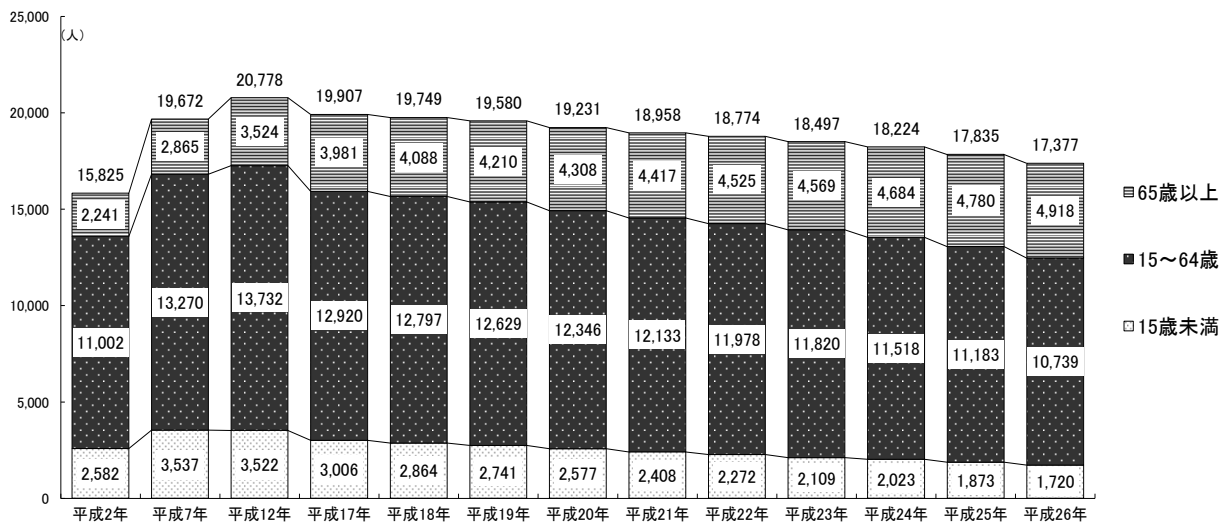
第1節 人口と世帯の状況

1 総人口と総世帯の状況

国勢調査によると、当別町の人口は平成12年にピークがあり、以後減少傾向が見られます。また、15歳未満人口は減少傾向、65歳以上人口は増加傾向にあり、まさに少子高齢化の傾向が表れています。

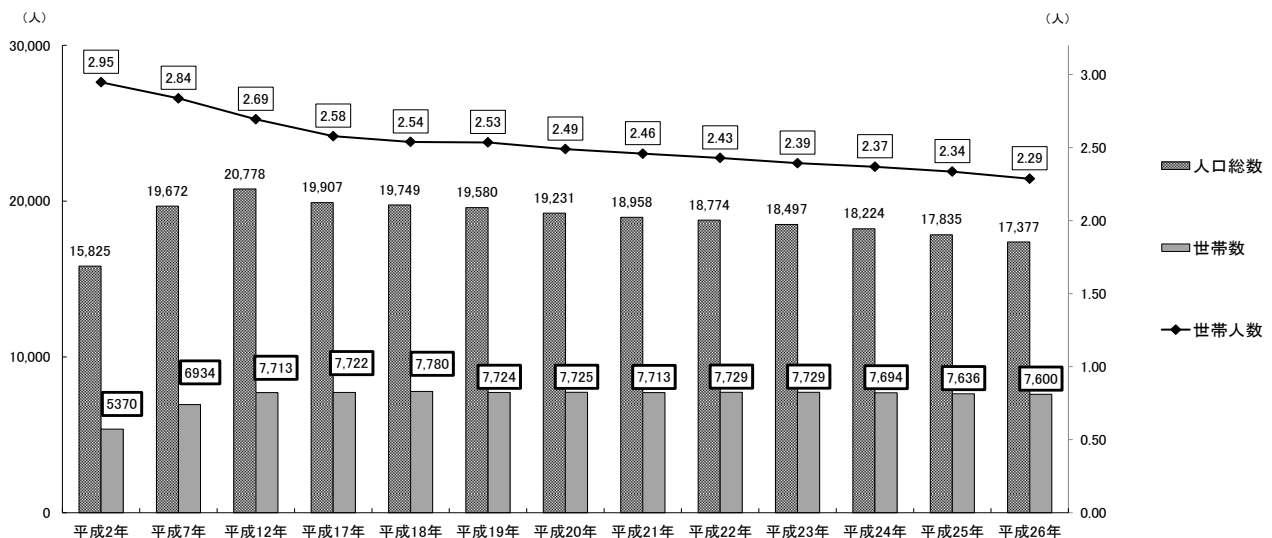
一世帯あたりの人口も減少傾向が続いており、世帯の少人数化が進んでいます。

総人口と年齢3区分の推移



資料：平成17年までは国勢調査
平成18年以降は住民基本台帳(4月1日現在)

人口と世帯数の推移



資料：平成17年までは国勢調査
平成18年以降は住民基本台帳(4月1日現在)

2 晩婚化・非婚化の状況

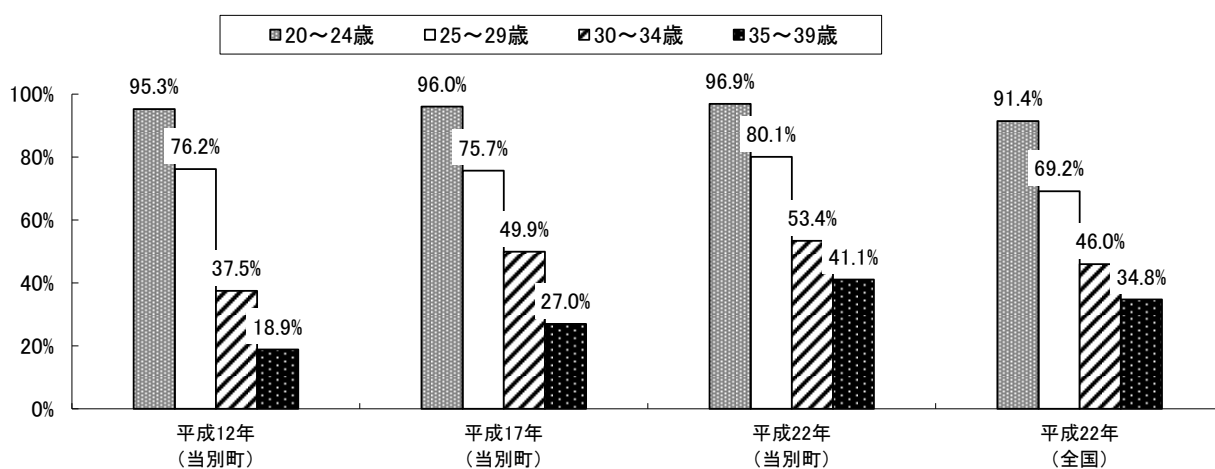
平成22年の20代、30代の未婚率（離婚した人は含まない）をみると、35～39歳の層での男性の41.1%が未婚となっており、平成12年の倍以上に上昇しています。

また、女性も、35～39歳の層で23.1%が未婚となっています。この年齢層の未婚率は、平成12年から、3倍以上に上昇しており、男女ともに晩婚化・非婚化の傾向が見られます。

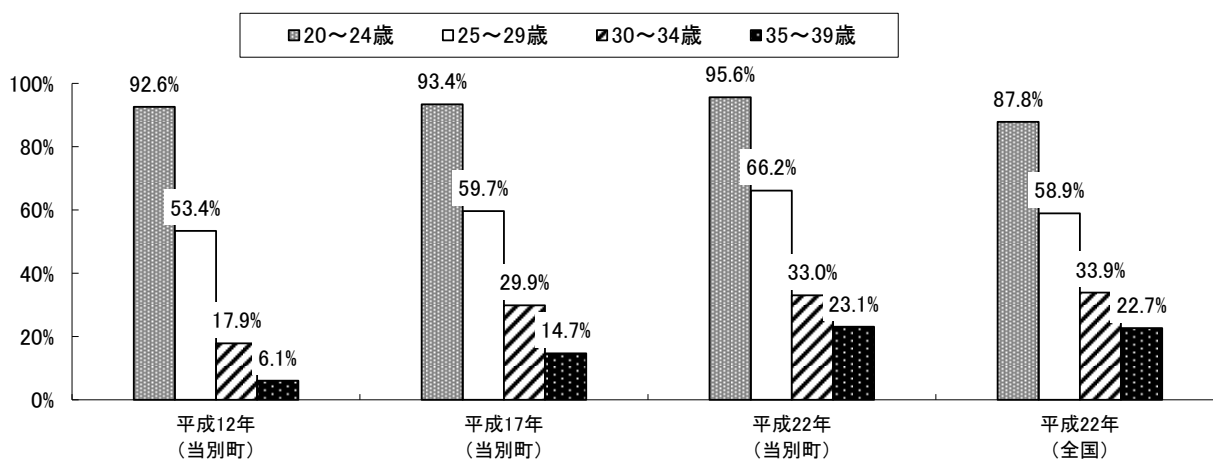
当別町は男女とも全体的に全国値よりも高い未婚率となっており、とりわけ男性でその傾向が強く見られます。

未婚率の推移

〔男性〕



〔女性〕



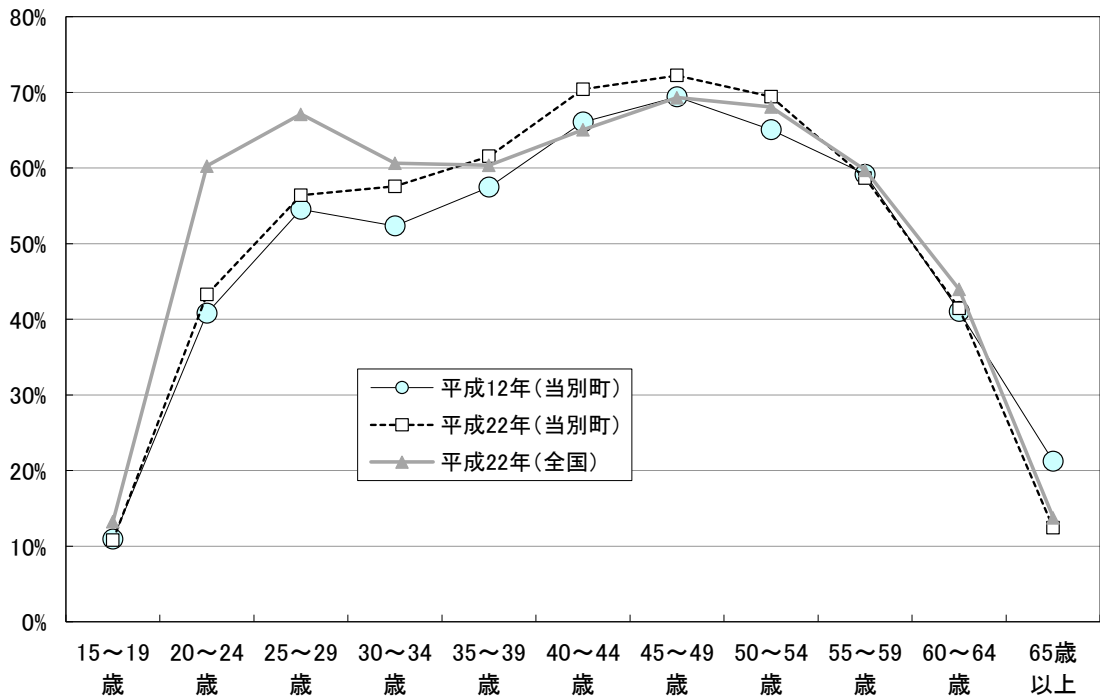
資料：国勢調査

3 女性の就業状況

平成12年、平成22年の当別町における女性の就業率の傾向を年齢別に見てみると、20～50歳台にかけて、就業率が上昇しています。

また、平成22年時点の全国値と比較すると、当別町の女性の年齢別就業率は、20～34歳にかけ全国値より低く、35～54歳にかけ全国値より高い値になっています。

女性の年齢別就業率

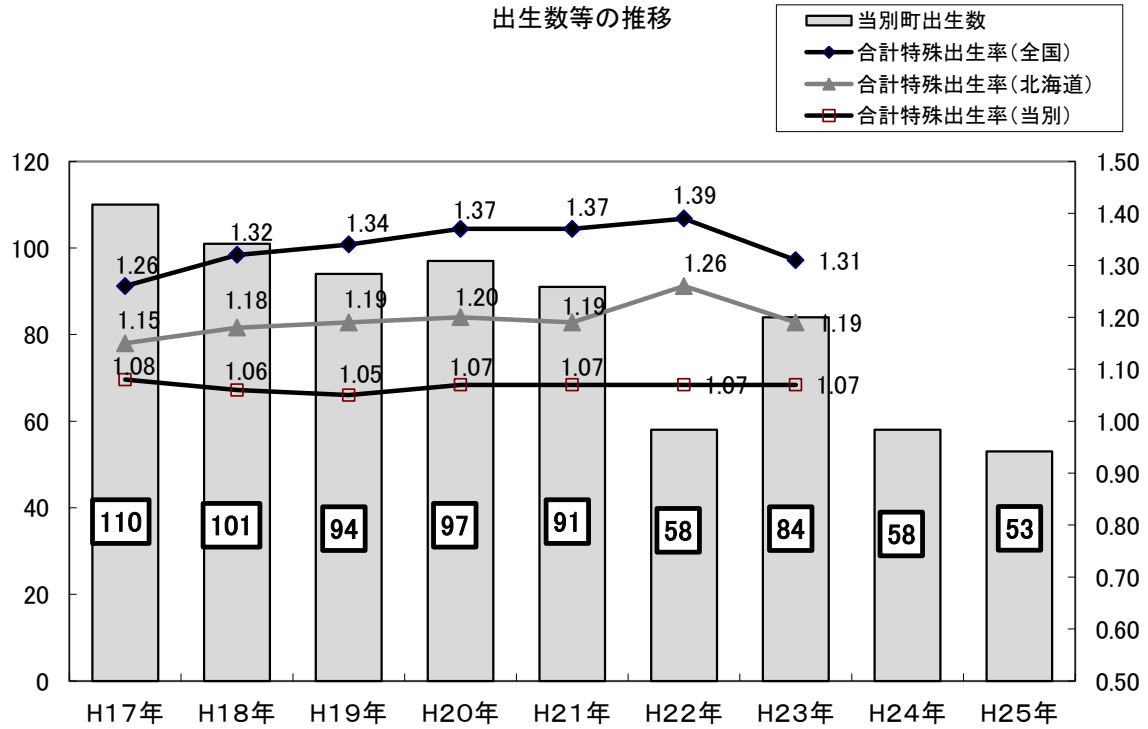


資料:国勢調査

4 出生の状況

当別町の出生数については、平成 19 年に 100 人を下回り、平成 25 年には 53 人にまで減少しています。

また、平成 24 年の当別町の合計特殊出生率は 1.07 であり、近年横ばい傾向ではありますが、全国値、北海道値よりも低水準で推移しています。

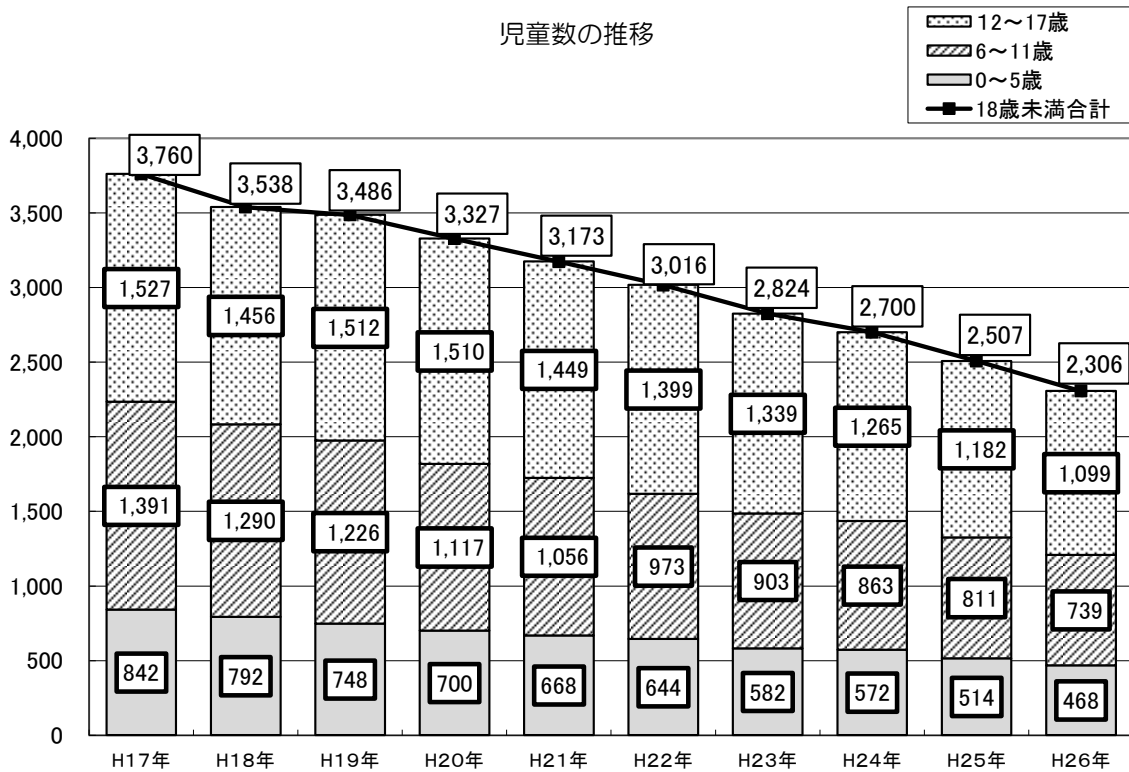


資料:住民基本台帳(4月1日現在)

合計特殊出生率は、石狩地域保健情報年報(人口動態統計)

5 児童数の状況

0～17歳の児童数は、平成26年において2,306人です。このうち、就学前児童数は468人、小学生児童数は739人、12～17歳の児童数は1,099人となっています。いずれも平成17年以降の推移で見ると、減少傾向にあります。



資料：住民基本台帳（4月1日現在）

	平成17年	平成26年	減少数	減少率
0～5歳	842人	468人	△ 374人	(△ 44.4%)
6～11歳	1,391人	739人	△ 652人	(△ 46.9%)
12～17歳	1,527人	1,099人	△ 428人	(△ 28.0%)
計	3,760人	2,306人	△ 1,454人	(△ 38.7%)

第2節 アンケート調査結果からみた子育て環境について

◇◇調査の概要◇◇

「子ども・子育て支援事業計画」の策定にかかる基礎データを得るために、家庭における子育てに対する生活実態や意識などのアンケート調査を実施しました。

調査の概要は次のとおりです。

●調査期間

平成25年12月13日～平成25年12月27日

●調査方法

調査は、国が定めた調査項目に町独自の設問を設けた調査票により実施しました。

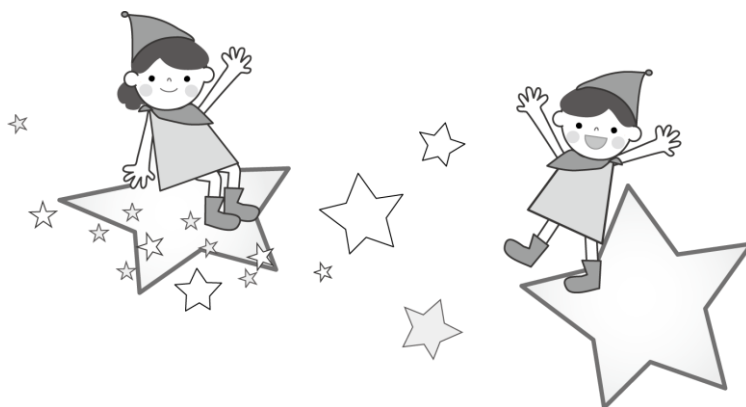
配布・回収はいずれも郵送にて実施しました。

●調査対象者

0歳～小学6年生児童のいる町内全世帯の保護者。

●配布数・回収数

配布数	867件
回収数	398件
回収率	45.9%
対象児童数	622人



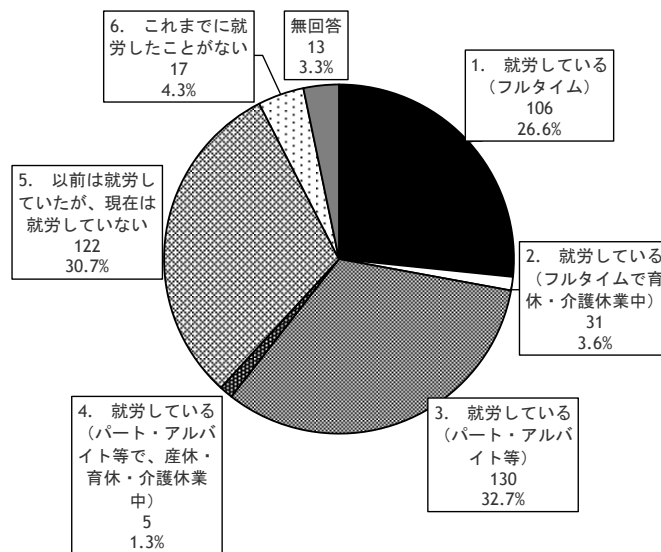
1 保護者の就労状況について

(1) 母親の就労状況

65%近くの母親が、就労中（育休など含め）と回答しています。

平成22年の国勢調査による、女性の就労率は48%程度なですので、子どもがいる世帯を対象とした本調査でのこの結果は、非常に高い割合を示していると言えます。

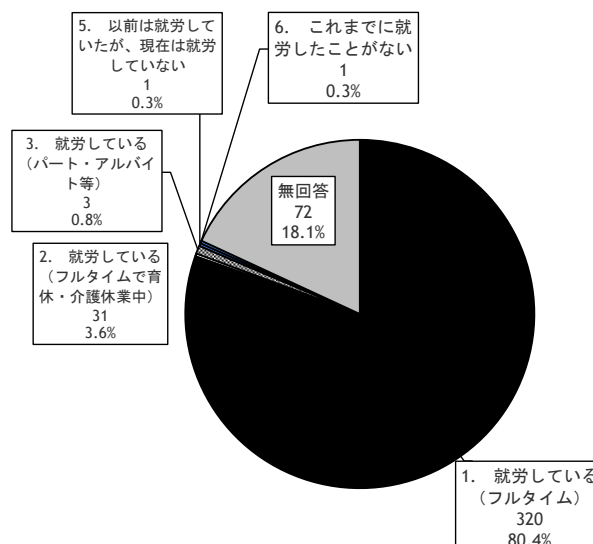
※無回答には、「父子家庭」が含まれている可能性があります。



(2) 父親の就労状況

父親については、約8割が就労おりますが、父親が育児休業を取りやすい環境の整備が依然として進んでいないことが判ります。

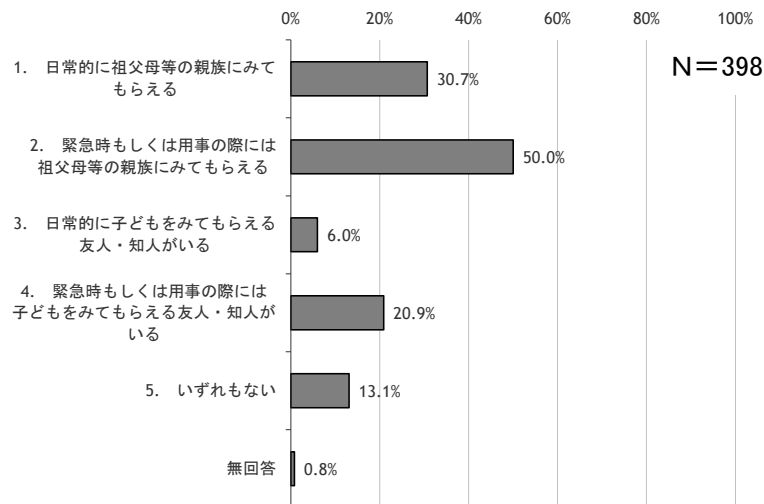
※無回答には、「母子家庭」が含まれている可能性があります。



2 子育ての孤立化について

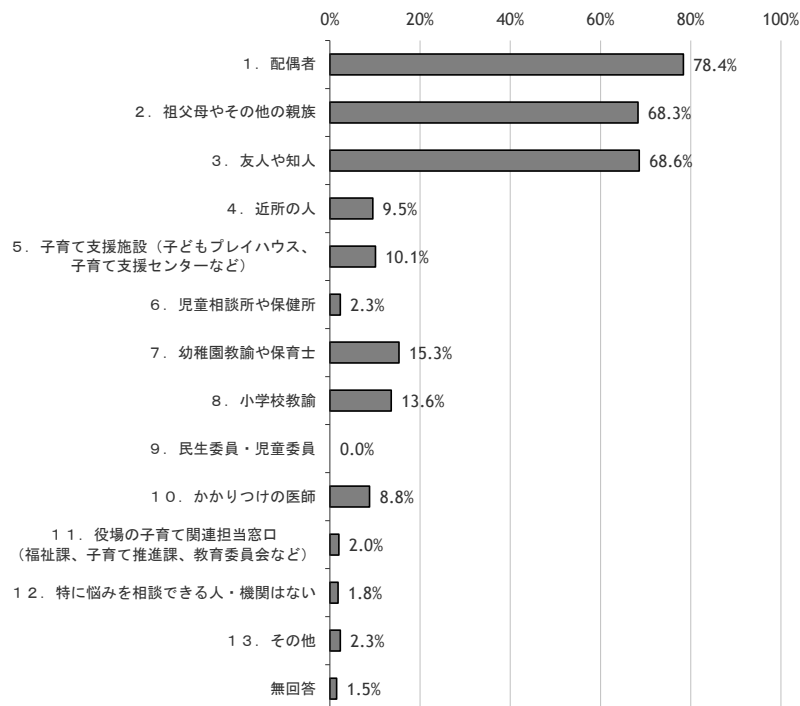
(1) お子さんをみてもらえる親族・知人はいるか

9割近い方が、親族や知人にお子さんをみてもらえる環境にある一方で、「いずれもない」と答えた方が、13.1%おられました。



(2) 子育ての悩み相談相手

約8割の方が「配偶者」を選択しています。また、親族知人を除くと、「幼稚園教諭や保育士」(15.3%)「小学校教諭」(13.6%)が同程度の割合で選択されています。



3 子どもの生活の現状について

(1) お子さんの食事の現状

ほぼすべてのご家庭において、毎日ご家族一緒での食事がされています。
また、朝ごはんもほぼすべてのお子さんが、毎日とられています。

【お子さんは、家族と一緒に食事をしているか】

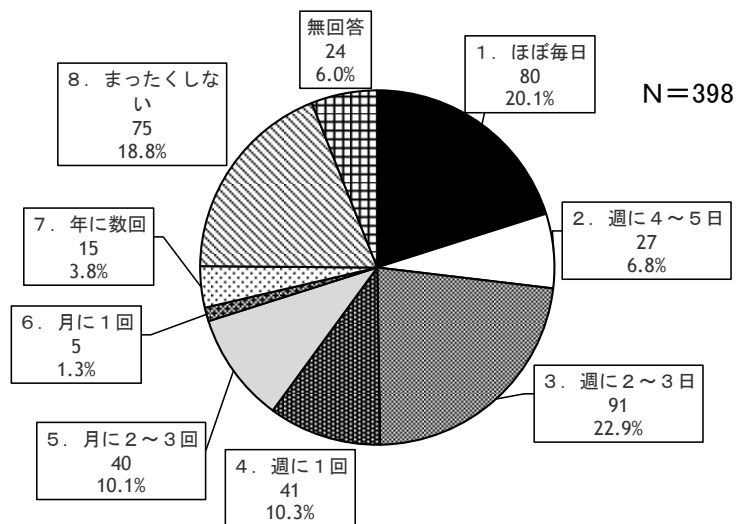
	世帯	割合
1. ほぼ毎日一緒に食事 をしている	374	94.0%
2. 週に4、5日は一緒に 食事をしている	9	2.3%
3. 週に2、3日は一緒に 食事をしている	6	1.5%
4. 週に1日は一緒に食事 をしている	6	1.5%
5. ほとんど一緒に食事を していない	1	0.3%
無回答	2	0.5%
合計	398	100.0%

【お子さんは朝ごはんを食べるか】

	世帯	割合
1. ほぼ毎日食べる	386	97.0%
2. 週に4、5日	4	1.0%
3. 週に2、3日	4	1.0%
4. 週に1日くらい食べる	0	0.0%
5. ほとんど食べない	1	0.3%
無回答	3	0.8%
合計	398	100.0%

(2) お子さんの家の手伝い頻度

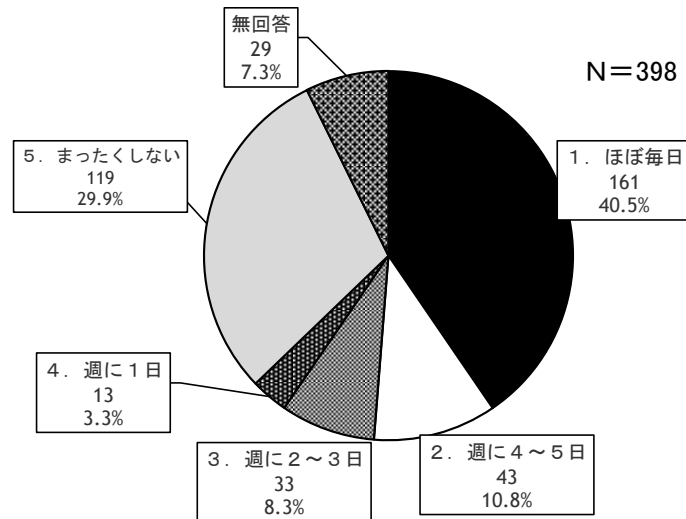
「週に2～3日」が最も多く見られましたが、「ほぼ毎日」も同程度見られます。
全体として、1週間のうちで、必ずお手伝いをする（「1.」～「4.」）お子さんが、全体の約6割を占めています。



(3) お子さんの学習頻度

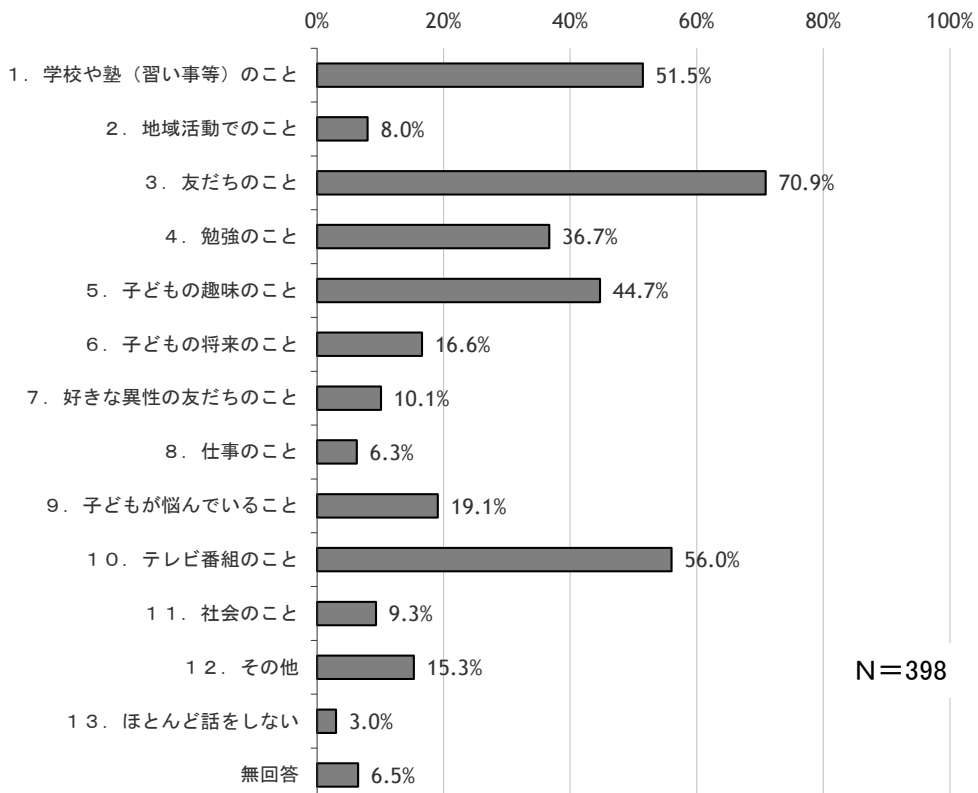
5割を超えるお子さんが、週の半分以上勉強していると回答しています。

また、1日の学習時間では、21～30分が約34%、51～60分が約25%あり61分以上という回答も約9%ありました。



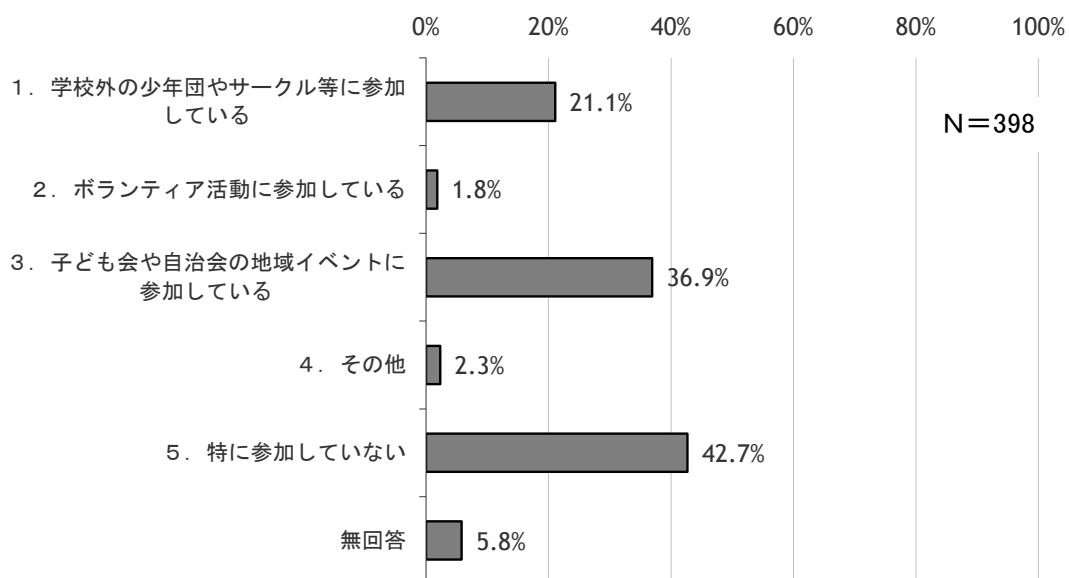
(4) お子さんとの話題

「友達のこと」が約7割と最も多く、「テレビ番組のこと」「学校や塾（習い事等）のこと」がそれに続きます。



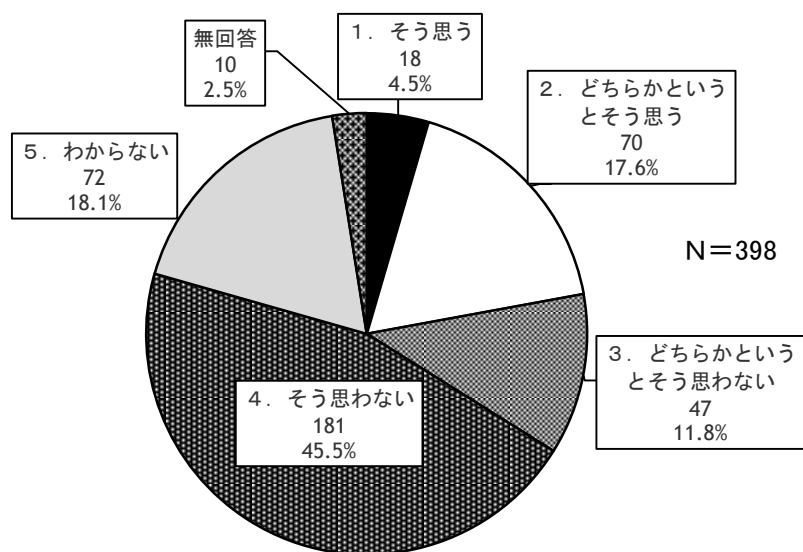
(5) お子さんの地域活動への参加

「特に参加していない」が最も多く4割を超えていますが、半分を超える方が、何らかの地域活動へ参加していると言えます。とりわけ多かったのが、「子ども会や自治会の地域イベントに参加している」でした。



(6) 最近、親子の結びつきが弱くなったという意見について

約6割の方が、親子の結びつきが弱くなったとは思わないという回答でした。



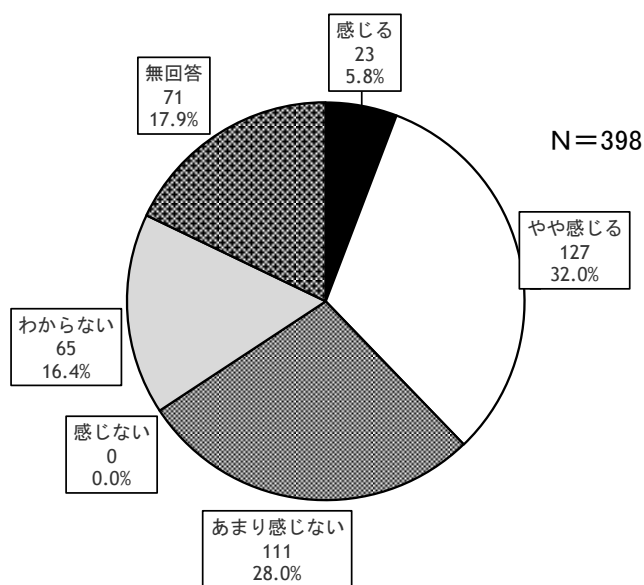
4 当別町の子育て環境について

(1) 当別町は、安心して子育てをできるように支援体制が整っていると感じるか

明確に「感じない」と回答した方はおりませんでした。

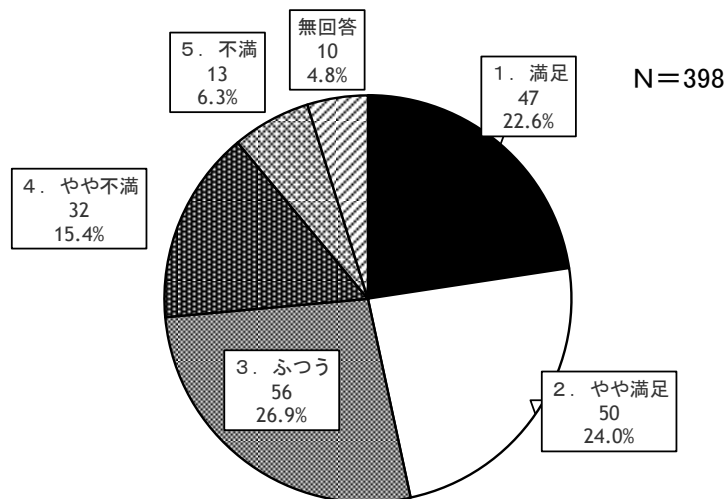
「感じる」・「やや感じる」といった肯定的な回答が約4割でしたが、「あまり感じない」と否定的な回答も約3割ありました。

第5次総合計画における当該満足度の目標値は、平成30年度までに「30%以上」としており、肯定的な回答が37.8%で、目標値を上回る状況ですが、今後は、さらに高い満足度が得られるよう、施策を推進していく必要があります。



(2) 保育所・幼稚園・認定こども園の満足度

明らかな不満を回答したのは、約2割にとどまり、半数近くが肯定的な思いを回答しています。第5次総合計画における当該満足度の目標値は、平成30年度までに「50%」としており、満足・やや満足の回答が46.6%で、目標値に近づいている状況です。



第3節 統計とアンケートから見えてくる課題

日本全国が抱える問題として、「人口減少」、「少子高齢化」が急速に進行しており、背景には晩婚化・非婚化が進行していることや非正規労働者の増加など雇用情勢が安定しないこと、一方で女性の就労率がパートタイムの分野で上昇していること、また、景気回復が実感できない中、子育てに対する経済面での不安を持つ人が増えていることなど社会的問題が少子化に大きく影響しているものと考えられ、当別町においても前述のような社会的要因を背景とし、予想を上回るスピードで「人口減少」、「少子高齢化」が進んでいる実態があります。

このような社会的背景も含む大きな課題を一気に解決することは困難ですが、アンケートにおいても子育て支援に対する当別町への期待も大きいことから、本計画においては「課題解決の方向性」を「基本目標」へと置き換え、より一層子育て支援環境の充実に取り組んでいくこととします。

人口減少⇐⇒子育て・出産世帯の減少

晩婚化・非婚化の進行⇐⇒出生数・率の低下

子育ての孤立感と負担感の増加

子育てに係る経済的支援の必要性

子育て支援の行政に対する期待